**広 島 国 際 大 学 動 物 実 験 計 画 書**

(整理番号) ※委員会で記入

提出日：　　　　年　　月　　日

受取日：　　　　年　　月　　日

選択項目を■ 　 □新規実験

□継続実験　承認番号AE

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究課題名 |  | 選択項目を■ | □開示 |
| □非開示 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 実験責任者名 | ふりがな　氏名 | 所属学部・学科 | 職責または学年 | 連絡先内線番号 |
|  |  |  |
| 緊急連絡先（携帯電話） |  |
| e-mail |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 実験実施者名 | ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| ふりがな　氏名　 |  |  |  |
| 実験実施期間 | 　　　　年　　月　　日　　～　　　年　　月　　日 | 年度内に終了できない実験の場合■ | □ |  |  |  |
| 動物飼育場所 | □呉　□東広島キャンパス動物飼育施設 | 飼育室 | ブリーダー |  |
| 使用動物選択項目を■ | 動物種 | 系統 | 性別 | 購入時の週齢 | 使用ケージ数 | 1ケージあたりの匹数 | 総匹数 | 生物学的品質 | 遺伝子改変 |
|  |  | □雄 |  |  |  |  | □ Conv. | □ TG |
| □雌 | □ SPF | □ KO |

実験計画記入要領をよく読んで具体的に記入すること。

|  |  |
| --- | --- |
| 実験の目的 |  |
| 実験計画と方法 |  |
| 研究課題を非開示とした具体的な理由 |  |
| 実験方法(選択項目を■) | * 1. 行動観察
 |
| * 2. 試料投与(化学発がん物質、重金属等毒性物質を除く)
 |
| * 3. 材料採取
 |
| * 4. 外科的処置
 |
| * 5. 遺伝・育種実験
 |
| * 6. 感染実験(安全度分類　 　　　　　　　　　　 )
 |
| * 7. RI・放射線実験
 |
| * 8. 化学発がん・重金属実験
 |
| * 9. 組換えDNA実験(準ずる実験を含む)
 |
| * 10. その他　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 |
| 想定される苦痛のカテゴリー(選択項目を■) | * A. 生物を用いない実験、あるいは植物、細菌、原虫、または無脊椎動物を用いた実験
 |
| * B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験
 |
| * C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽微なストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験
 |
| * D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛みを伴うと思われる実験
 |
| * E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験
 |
| 動物の苦痛軽減、排除の方法 | 1. 麻酔薬や鎮痛剤等の投与および吸入(薬剤名を記入　　　　　　　　　　　　　　　　　) |
| 2. その他(具体的に記入　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　) |
| 安楽死の方法(選択項目を■) | * 1. 麻酔薬等の投与および吸入(薬剤名を記入
 |
| * 2. 炭酸ガス
 |
| * 3. 中枢破壊(方法を記入　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
 |
| * 4. その他(具体的に記入　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
 |

|  |  |
| --- | --- |
| その他必要または備考事項 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 動物実験委員会の実験計画に対する意見等（委員会記入） | 審査終了年月日 |
| 修正意見等 |
| 審査結果 | □　本実験計画は、広島国際大学における動物実験指針に適合する。(条件等　□　組換えDNA実験安全委員会の承認後、実験を開始すること。)□　本実験計画は、広島国際大学における動物実験指針に適合しない。 |
| 学長承認欄 | 課題名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　本実験計画を承認する。承認年月日　　承認番号：AE　　　　　　　　　　　　　　　　　広島国際大学長 |

チェックシート　**実験責任者がチェックして提出してください。**

1ページ目 □　提出日について：年月日が西暦で記入されている。

□　実験実施期間が申請年度の年度末（３月３１日）までになっている。

どちらかに☑

□　年度内に終了できない例外処置が必要な実験である。「実験計画と方法」に投与期間や処置期間が長期に

わたるなど、具体的な理由が記入されている。⇒最終ページで対象実験であることを確認済

□　動物飼育場所の名称について

呉キャンパスもしくは東広島キャンパスいずれかを選択している。

・呉キャンパスの場合、マウス飼育室、ラット飼育室、ウサギ飼育室、多目的飼育室SPFマウス飼育室、SPFラット飼育室の記入がある。

・東広島キャンパスの場合、マウス飼育室、ラット飼育室の記入がある。

□　使用ケージ数について

　 使用ケージ数とは、実験時に使用する最大ケージ数を示します。（＊のべ使用数ではありません。）

2ページ目

目的 □　動物実験がなぜ必要かについて記入がある。

□　代替方法がないのか？代替できない理由について記入がある。

□　動物実験の成果によって、どのような社会貢献ができるかについての記入がある。

□　継続実験の場合、これまでの実験進行状況と今回の申請でどこまで明らかにする予定なのかについて記入がある。

実験計画と方法

・実験方法について

薬物投与実験の場合　→→　 □　薬物名の記載がある。（曖昧な表現、例えば消化機能改善薬等の記述は不可。特に新規薬物を

投与する場合、構造式、毒性、発がん性等、詳細に記入してください。また、論文等で報告が

ある場合は別添してください。）

□　投与経路の記入がある。

 □　用量の記入がある。

 □　投与期間中に動物に異常が見られた際の安楽死処置の記入がある。

手術を施す実験の場合→→ □　術中の麻酔（薬物名・用量の記入）等を用いた苦痛の軽減方法の記入がある。

□　術中・術後に動物に異常が見られた際の安楽死処置の記入がある。

 □　術後の患部の消毒方法の記入がある。

強制水泳を行う実験の場合→ □　動物が溺れた際の処置についての記入がある。

・使用動物数について

□　匹数をどのようにして設定したのか、必要数の根拠に関する記入がある。

□　使用動物の総匹数が申請書１ページ目の使用匹数と一致している。

・安楽死処置について

□　実験終了時の安楽死の方法の記入がある。

・逃亡防止処置

□　実験や解剖等で飼育室から他室へ動物を移送する際、結束ベルト等を用いて、ケージのフタが容易に開かない処置を講ずる等の記入がある。

・遺伝子改変動物について

□　遺伝子組換え実験申請中もしくは申請済の記入がある。

**年度内に終了できない実験とは申請年度内に実験動物を屠殺しないために結果が得られず、動物実験終了報告書を提出できない実験を指します。**

例）申請年度2024年度

2024年10月に糖尿病モデルラットを作製し、2025年4月に屠殺して臓器への影響を検討する実験

⇒実験結果が何1つ出ておらず、動物実験終了報告書を2025年3月（申請年度内）に提出不可能である。

⇒実験結果が出次第、2024年度動物実験終了報告書として提出。

**年度をまたぐ実験であっても、年度内に実験動物の一部を屠殺する実験の場合、これまで通り年度末に動物実験終了報告書を提出し、次年度に継続実験として動物実験計画書を提出する必要があります。**

例）申請年度2024年度

2024年10月に糖尿病モデルラットを作製し、2025年1月および2025年4月に屠殺して臓器への影響を検討する実験

⇒2025年1月（申請年度内）に屠殺している。

⇒2024年度動物実験終了報告書に1月に屠殺したラットの匹数、得られた結果、次年度も継続すること等を記述して提出。

⇒継続実験として2025年度の動物実験計画書を提出。2025年度動物実験終了報告書に4月に屠殺したラットの匹数、得られた結果を記述して提出。

**計画していた時期に動物が搬入できず、年度内に実験を終了できなくなった場合など、例外が生じた場合には動物実験委員会担当事務へご相談ください。**